

## 令和4年度 第1回教育課程編成委員会 委員発言要旨

日時 令和4年7月25日(月) 10:00~11:30

場所 岐阜県立国際園芸アカデミー 研修室A

### <学長あいさつ>

本日の会議は感染症対策をとり、授業も見学いただけるよう、WEBと対面のハイブリット方式の形をとっている。ご理解とご協力をお願いする。

委員の皆様には令和6年3月31日まで委員の委嘱をお願いしている。2年間、よろしくお願いいたします。

今年度は23名の新入生を迎えてスタートを切った。コロナ禍の状況は収まらず、大きな影響を受けている。今年度も国外視察ではなく、国内視察研修に切り替えて実施した。

感染対策と学修機会の確保、両立をはかっていくことが学校の使命。状況の変化に対し、迅速に対応してまいりたい。

教育課程編成委員会は、企業や関係団体と連携をとりながら、実践的な教育の保証や向上を目指すものである。各委員には専門的な見識の中から、本校のカリキュラムの編成に対する忌憚のない意見をいただきたい。

### <出席者について>

(事務局より委員9名中6名と過半数の委員が出席しており、教育課程編成委員規程第8条第1項により委員会が成立していることを報告)

(学長より各委員を紹介)

### <新カリキュラムについて>

(資料1により説明)

山田委員：資料1の2つ目の項目で、変更したことの影響をお聞きしたい。起業・経営シミュレーションを1年後期に実施してどう変化があったのかお聞きしたいが、まだ実施していないということか。

臼田委員：今年度後期からスタートということでまだ結果は得られていない。

山田委員：1年後期に実施することで、学生の意識づけがどう変化するか興味がある。また次回教えていただきたい。

今西委員長：次回、変更したことによりどんな影響があったか、検証しながらご報告させていただく。

## ＜令和3年度後期授業について＞

(資料2, 3により説明)

稲垣委員：実習において、非常勤講師や客員教授からも、より実践的な授業を行っている。学生もいろいろ質問ができて良いと思う。現場において、クレーン、ユニック等トラックについているクレーンを使うことが多いが、三叉、チェーンブロックを使って狭い場所での手作業は時には必要であり、良い経験である。根巻き養成作業も普段身近な作業であり、慣れてもらうことが大切である。

小笠原委員：生産分野で、テーマを現場で問題となっていることから抽出しているということで、大変大事なこと。現場では、いろいろな問題が出てきており、研究機関や学校で解決していただきたいことがたくさんある。

広くいろいろな分野から取り上げていただき、研究テーマとしていただくことが非常に大切である。

例えば、近年非常に暑く、ガーデニングの植物など耐暑性が重要になっている。以前は耐寒性が大きなテーマとなっていたが、近年は耐暑性がより大事なテーマになってきた。耐暑性をテーマとして研究いただくと、ガーデニングにとって貴重な資料となる。暑い可児市で育つ植物は、日本全国で夏でも元気に育つということがいえるかもしれない。ぜひ検討いただきたい。

大橋委員：生産分野で現場から課題を抽出して、企業の方と連携を深めるやり方は新しい取り組みだと考える。こういった取り組みを続けていただき、企業との連携をよりいっそう深めていただきたい。

山田委員：全体を通して、PDCAサイクルがうまく機能していると思われる。

応用的な技術を習得するためにいかに基礎的な知識が必要か、学生に理解させることが重要。応用的な授業の後、PDCAサイクルを用いて確認する中で、1年生の早い時期に習っている基礎科目の知識が自分に必要なのだと認識させる、意識づけを学生自ら行うように仕向ける。学生は応用的な部分に興味がいきがちであるが、ベースの部分で基礎的科目が活着しているということをいかに学生に意識させるかが重要。社会に出てからも基礎学力が求められる。

## ＜授業評価アンケートについて＞

(資料4により説明)

山田委員：コメントして返すことは学生にとってありがたいこと。ぜひ続けていただきたい。

キャリアデザインについて、アンケートで難易度として「難しい」と感じている学生がいても、理解できたかという項目で「理解できた」という学生の割合が

多いということは、授業できちんと説明されたのではないか。難しいけれど理解できたということにつながると思われる。

満足度はその時点での数字が出ているが、学んでいる時点で満足できなくても、その後ステップアップした時に、振り返ってみて重要だったと思ってもらえるかが重要。卒業後どう感じてもらえるかが大事だと思う。

今西委員長：授業アンケートについては、きめ細かく対応していきたい。

### <教育環境整備について>

(資料5により説明)

大橋委員：国際園芸アカデミー有識者会議で、業界の環境が激変する中で花と緑の産業に直結した教育の実践が必要ということで、教育体制の充実や経営感覚に優れた人材の育成を行う方向性が示された。

教育体制の整備については、実践を磨く場としてワールド・ローズガーデンというフィールドでの活動を充実させるために、新カリキュラムも検討されている。これからがスタートということで、施設整備・新カリキュラム検討の取り組み結果も期待される。

今西委員長：ぎふワールド・ローズガーデンは都市公園であり、所管は都市公園課、公園を管理運営しているのは指定管理者。花トピアについては、財産を含めて公園サイドにあるため、都市公園課、指定管理者との調整が必要。新たに施設整備したものについてもアカデミーだけが使うのではなく、公園一般利用者の方も使えるような施設だという理解でいる。運用、活用についてもとりまとめが必要。

教育課程編成委員会では、ぎふワールド・ローズガーデンで座学が幅広くできるように、カリキュラム編成のなかでご意見いただければと考える。次回以降、具体的な提案をさせていただきたいと考えている。

### <業界の動向及び求める人材について>

(資料6及び資料7について説明)

今西委員長：インターンシップで、企業様からたくさん意見をいただいていること、これはアカデミーの大きな財産である。これをどう活かしていくか、どのように学生を社会に送り出していくかということに繋げていきたいと思っている。

引き続き、お世話になる企業様には、こういった意見を賜りたいと思っている。

小笠原委員：一企業として求める人材について、即戦力は全く考慮していない。アカデミー卒業生も何名か入社いただいているが、半数ぐらいは文系の学部卒業の学生を入れている。花を全く知らない人を積極的に採用している。どんな人材が会社に大切かを考え、技術や知識より情緒が豊かな学生、美しいものを美しいと感じる心を持っていることを大切にしている。

技術・知識は、入社3年間でいろいろな現場に配置し、ビシビシ叩き込み、現場で一人前の花屋になるよう教育する。経験としてアカデミーで学んだことも大事であるが、ベースとなる、花が美しいと思う情緒が非常に豊かな学生をどう育てていくかが大切だと思う。

情緒とは生まれたときから育むもので、在学数年間で急激に増えるものではない。わたくし自身、大学の授業で教えていただいたことはあまり覚えておらず、むしろ先生とお付き合いさせていただいた中で授業より、先生の背中で、普通の会話等で教えていただいたことがはるかにためになっている。

卒業後挫折することも多く、卒業後も先生とお付き合いさせていただけるような人間関係ができると良いと思う。

アカデミーのような小規模な学校では、教師と生徒と人間の機微に触れるような関係が構築しやすいのではないか。ぜひ情緒豊かな学生を一人でも多く輩出していただけると良いと思う。

今西委員長：ご意見いただき、ありがとうございます。今後の授業やカリキュラムに反映しながら、より社会に役立つ学生を輩出していきたいと思えます。

## <全体を通して>

特になし